

ご自由にお持ち帰りください。

# 生涯学習

# とっとり

鳥取県教育委員会発行  
2014.11 霜月

155

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ

## ★特集

学校・家庭・地域の連携

ふるさととは山守、山守といえ

## 関金子供歌舞伎

### 3 ★鳥取県手話言語条例制定から1年

～誰もがコミュニケーションできる地域を目指して～

### 4 ★とっとり県民カレッジ

●11・12月講座情報 (連携講座)

### 27 ★お知らせ

●鳥取県立生涯学習センター (県民ふれあい会館)

### 28 ★家庭教育支援講座

出前講座 魔法の板 'カプラ' で遊ぼう!

### 29 ★長期宿泊体験学習

●大山セカンドスクール

日吉津小学校5年生 たくましく成長!

### 30 ★お知らせ

●船上山少年自然の家

### 31 ★ご案内

●第12回 関西文化の日

●あたまイキイキ音読教室



『切り絵シリーズ』花御所柿 (八頭町)

秋の陽に花御所柿の実が輝く。ユニークな看板が目を引く物産館みかどで秋の味覚をゲット!

絵・文：紙原 四郎 氏

# 学校・家庭・地域の連携

## ふるさと山守、山守といえば 関金子供歌舞伎

今からちょうど400年の昔。今は千葉県、安房国館山藩主里見忠義公は幕府から無実の罪を着せられ、伯耆国倉吉への転封を命ぜられる。ここ関金は、忠義公がお家再興を果たせぬまま亡くなった里見伝説の郷。

毎年9月第一週の日曜日に行われる「倉吉せきがね里見まつり」では、地元山守小学校5、6年の児童が、この物語をモチーフに作られた「関金子供歌舞伎」を披露します。

夏休みに入ると同時に始まる厳しい稽古を経て、今年は例年以上の盛り上がりの中、約400名の観客を前に堂々と演技をした子どもたちに、会場は拍手喝采が鳴り止みませんでした。

ふるさとの誇りと伝統を伝える行事として受け継がれている「関金子供歌舞伎」。それを温かく支える学校・家庭・地域との関わりを取材しました。

### 本番まであと4日・・・

午後7時半。「倉吉せきがね里見まつり」の会場となる山守小学校体育館。「お願いします！」

5、6年生12人の大きな声が体育館に響きます。さっそく通し稽古。監督の厳しい目。ピリッと張り詰めた緊張感。

「とざい、とーざい。これなる舞台の面々は 伯耆の国は久米郡・・・」

テンポのよさと抑揚をつけた口上に、すっかり引き込まれてしまいます。

忠義公の娘伏姫のもとに集まった「仁」「義」「礼」「智」「忠」「信」「孝」「悌」の霊玉を持つ奇しき因縁の八犬士役の子どもたちが、本番さながらのセリフ回しで、大見得をきりながら真剣な表情。

「あわてんでいいから、ゆっくりでいい」  
「大きく、声が小さい」



毎日の練習に「この時期は当たり前のことだと思っています(笑)」本番まであと4日。監督の声も一段と力が入ります。



監督の声も響きます。



裏方に徹して  
子どもたちを  
支えます。



関金子供歌舞伎保存会  
会長 **坂根 すすむ 奨さん**

昭和61年、ちょうど日本全国に一村一品運動など地域活性化の機運が高まっていた頃、関金にも何かないかということで商工会青年部の方達が動き出しました。

民間の地域コーディネーターの方が「ここには里見の墓がありますよ」とおっしゃった。その頃、村の人でもそのことを知っている人はあまりいませんでした。貴重な歴史資源ということで、里見をテーマにした「まつり」を開催することになりました。

始めの年は、里見八犬士にちなんで8つの太鼓を作りました。皮から何から全部手作りです。次の年、歌舞伎をしようと、町職員の故石田紀人さんが南総里見八犬伝をモチーフとした「八犬土堀村勢揃いの場」の台本を書かれました。その年は議員さんたちが出演されましたが、3年目は、子どもたちにやってもらったらどうかと。それまで山守地区には子どもたちが祭りに参加する機会がありませんでした。「地域の祭りで子どもが活躍する場面を作ってやりたい」ということで、昭和63年から子供歌舞伎が始まり、以来26年間続いています。

### 地域

子どもたちの目を  
輝かせたい、  
輝く顔が見たい。



関金子供歌舞伎保存会  
監督 **福田 耕昇さん**

本番は9月第一週の日曜日なので、練習は夏休みに入ると7時半から1時間、毎日あります。夏休みに入る前に台本を渡されて、稽古初日までにだいたい覚えてきています。その前に配役を決める日がありますが、子どもたちは小さいときからお兄さんやお姉さんの舞台を見てきているので当然、あこがれの役柄があるわけです。同じ役に何人も重なると、それはもう子ども同士で話し合いです。大人は口出ししません。

毎年思いますが、子どもたちは飲み込みが早い。子どもの可能性は無限大だと感じますね。振り付けは中学生が教えることになっていて、昨年やった子どもたちが、今年は小学生の面倒をみます。サポートスタッフ9人。衣装担当、メイク担当、拍子木担当・・・すべて地域の方で、みんな子供歌舞伎が大好きなベテラン揃いです。そうやって地域の中で引き継がれていっています。本当に頼もしい限りです。

送り迎えの親御さんにも、なるべく練習会場の体育館に残ってもらっています。一ヶ月余りの練習を通してどのように成長していくのか、見守り中である感じてもらっているのではないかと思いますね。

### 地域

### 学校



学校は応援団！  
子供歌舞伎の経験が  
子どもたちの自信に  
つながっています。

倉吉市立山守小学校  
校長 **竹中 たくしな 徳さん**

今年は5年生7人、6年生5人が全員参加しています。山守小学校は全校33人の小さな学校です。地域がみんなの顔を知っていて家族同士も仲がいいです。しかし少人数の良さもあれば弱点もあります。大規模校に比べたら、ものおじしやすいとか、一步を踏み出す勇気が足りないとか。そういう部分を、子供歌舞伎を通して育ててもらっているところです。

子供歌舞伎を経験すると、子どもの中にもものすごい達成感が生まれます。「ぼくにもできるんだ」という自信もつきます。みんなで一緒に頑張った経験、大勢の前でスポットライトを浴びて演じきった経験、そういうことが学校生活や教室の中で「糧」となって現れていますね。学校でのいろいろな活動にも、最後までやりきる気持ちで取り組むようになっていきます。

給食の時間には、「子供歌舞伎」の話題で先生と子どもとの会話が弾みます。担任も練習の様子を見て、学校とは違った新たな一面を発見するようです。学校は応援団。教職員全体で見守っています。

今、本当にギリギリの人数でやっています。これから子どもの数が少なくなっていくことで、どのように続けていくのか。それはその時に考えてみないとわかりませんが、新たな挑戦のチャンスになるはずですよ。

学校や地域の理解、親や家族の協力、監督やスタッフなどの後押し、それぞれが子どもと関わり合いながら子供歌舞伎を通して地域の「誇り」を作り、守っています。子どもたちを学校の中で育てる部分と、地域の中で育てる部分があって、山守地区はそのバランスがとれているからこれまで続けられたのではないかと思います。子どもたちにとって子供歌舞伎は一生の財産。また、地域にとっての財産でもあります。どんな形になっても残していかなければいけない、山守地区の大切な宝物だと思います。

### おわりに

今年、坂根会長の娘さんとお孫さんが親子で舞台上に立って共演されました。それを裏方で見守る会長の姿がありました。26年続けてきた子供歌舞伎が3世代目の子どもたちに確実に受け継がれてきています。福田監督は「力の限り続けていきます」と心強い言葉で締めくくられました。

「関金子供歌舞伎」は今年の10月12日、倉吉未来中心で開催された「鳥取県青少年郷土芸能の祭典—子々奮迅(ししぶんじん)」に出演。さらに10月19日には、館山市にある千葉県南総文化ホールで開催された「房総里見氏170年の軌跡～里見氏安房国替400年～」にも出演されました。これからも活躍され、地域の宝として長く続いてほしいと思います。

### 家庭



練習を見守るお母さんたち